

新品種 国産グレープフルーツ「サンタマリア」のご紹介

いつも観音山をご愛顧いただきありがとうございます。

観音山フルーツガーデンの園主 児玉典男です。

この度、この4年間、満を持して大きな期待と共に栽培致しました、グレープフルーツ「サンタマリア」をご紹介させていただきます。

1、【国産のグレープフルーツ???

沢山の柑橘類がある中でなぜ国産のグレープフルーツが無いのでしょうか？

その理由は既存の品種では積算温度が不足して小さなサイズにしかならず、商品価値が無かったのです。

ハウス栽培なら可能かもしれませんが、低炭素社会向きではありません。

防カビ剤の散布されていないグレープフルーツを日本で栽培出来ないものか、そんな思いを38年間の農業人生の中で持ち続けてきました。

2、【サンタマリアとの偶然の出会い】

そのような中、4年前偶然に思いもよらぬ天恵を得ました。

私の友人が経営する特別養護老人ホームの夏祭りでのこと。友人から紹介された元大学教授から“グレープフルーツなら、私の通う教会で成ってますよ”とおっしゃったのです。

その教会は、和歌山から車で約2時間の大阪府高槻市にあり、その裏庭にグレープフルーツが生えているのだそうです。

私はすぐに、その教会を訪ねました。

和歌山より気温の低いその地で、国産では今まで見たこともないグリーンの実が枝もたわわに成っていました。

教会の牧師様のお話によると、植えた記憶のない木が裏庭で芽を出し、何の木だろうかと約20年間思い続けていたそうです。

そして数年前から突如大きな実を付け、京都大学の育種の専門家に鑑定していただ

いたところ、紛れもないグレープフルーツとのこと。

後日、果実が色づいたとの情報をいただき、クリスマスイブに再び教会を訪ねました。

信者様達にお食事をご馳走になり、手作りのこの果実のマーマレードも試食させていただいたところ、これが「美味しい！」。

柑橘栽培とは無縁の高槻市に降って湧いたようなグレープフルーツ。

信者さん達は、この1本の木を「サンタマリア」と命名されていました。

3、【テスト栽培の動機】

柑橘生産を業とする私達にとりまして”これはマリア様が観音山にお恵みくださった神木。

ぜひこの世の中に広げなければ！”との強い思いに駆られました。

その教会のお名前は「聖マリア教会」。

「マリア」は日本語で「観音（慈悲を施す財産）」を意味するとも言われ、江戸時代に幕府から抑圧されたキリシタンから「マリア観音」と呼ばれています。

牧師様、信者様の許可を得て、その子供である穂木を観音山にお預かりしました。

そして、接ぎ木や苗木から育てた木が昨春に花が咲き、4年目の今年、初収穫でした。

量はまだほんのわずかではございますが、輸入品と比べ少し酸味があります。

よく締った果皮と非常に果汁が多い品種です。

気品のある艶やかな果皮は「サンタマリア」の名に相応しいものです。

4、【品種の安定度の確認】

私が聖マリア教会様と出会う数年前に、今は亡き、前牧師様が近畿大学に依頼して「サンタマリア」の穂木から数本の苗木を作っていただいたそうで、その苗木は大阪府内の姉妹教会へご提供されていました。

種から育った品種の場合、接ぎ木で増殖すると原木の果実とは違った品質のものが出来る可能性が高いため、原木の子供である姉妹教会の木の果実を確認する必要性を感じました。

大阪府内の2つの姉妹教会を訪ね品質を確認したところ、原木とまったく同じ品質のも

のが成っていて変異していないことが確認できました。

その確信から、テスト栽培としては大々的に観音山で栽培を始める動機にもなっています。

今も観音山と兄弟である「サンタマリア」が、姉妹教会で大切に育てられています。

5、【信者様達との交流】

その後も聖マリア教会様と観音山のつながりが深くなり、教会では12月のクリスマスと5月に2回バザーを開催されており、初めての出会いの仲立ちをしていただいた元大学教授様のご協力もあり、その場に観音山からもフルーツを無償でご提供させていただき、その売上げは施設などに寄付されています。

歴史好きの私には、信者様のお一人と背筋に電気の走る経験もありました。

40年以上も前、私が地元の粉河高校の卒業の時に校長先生から“ピンチに強くなれ”との添え書きをいただきました。

今もその言葉を私の座右の銘としていますが、信者様の中にこの校長先生の姪ごさんがいらっしやることが分かりました。

高槻に嫁ぎ、伯父である校長先生の在職中のお姿をご存じないとのことでしたので、高校時代の古いアルバムからお写真をコピーしてお渡ししたこともありました。

残念ながらその時は校長先生はすでに他界されており、今回の出会いをお知りになればきっと喜んでいただけたことと思います。

6、【国産グレープフルーツ栽培が、日本農業に及ぼす影響】

みかんや柿など現在、国内で生産されているフルーツ類で新品種が出来、人気が出ますと、今まで栽培されていた古い品種が淘汰され、改植、伐採等を余儀なくされます。

しかし、100%輸入品であるグレープフルーツの場合は、国内には悪影響を受ける生産者がなく、純粹に新しい市場が出来ることとなります。

つまり、100%国産自給率の向上に、寄与できることとなります。

また、フードマイレージ（食物を運ぶために使うエネルギーの指数）が下がり、低炭素社会へも貢献できます。（外国からのグレープフルーツの場合、大きな船で二週間以上の日

数をかけて運ばれてきています。)

さらに、店頭に並ぶ防腐剤・防カビ剤（OPPやイマザリルなど）が使われた輸入物のグレープフルーツを見るたびに、安全・安心な食品を皆様にお届けするという、私達生産者の使命を感じずにはられません。

今後、数年のテスト栽培を経てから生産者の有志を募り、国産グレープフルーツが市場を席卷する夢を実現したく思います。

7、【テスト販売】

世界でオンリーワンであるマリア様からのお恵みである、このグレープフルーツをぜひ皆様にお試しいただきたく、このご案内を差し上げます。

なお、「聖マリア教会」様へは、今までこのサンタマリアを慈しみ育ててられ、大切にされていることに感謝して、売上金の一部を寄進させていただきたく思います。

【結びに】

4年前に突然の信者様の出会いから始まった、この「サンタマリア」を通じての新たな関係者の皆様との一連のお付き合い。

また4年前からネットを通じての多くのお客様との出会い。

それぞれに私の60年の人生の中でも特筆すべき凝縮された運命的な出会いを感じています。

長々と書かせていただきましたが、観音様、マリア様のご加護に日々感謝するとともに、皆様にもご神仏様の更なるご加護をいただきますことを祈念して、筆を置かせていただきます。

最後までお読み下さり、本当にありがとうございます。

平成22年3月吉日

紀州 観音山フルーツガーデン

五代目 児玉典男